

# 大里 普及だより

<<認定農業者向け情報誌>>

発行 埼玉県大里農林振興センター  
農業支援部  
熊谷市久保島 1373-1  
TEL:048-526-2210 FAX:048-526-2494  
URL <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k15/>  
E-mail [k262210@pref.saitama.lg.jp](mailto:k262210@pref.saitama.lg.jp)



埼玉県の  
マスコット  
「コバトン」

## 全国農業コンクール名誉賞 （農林水産大臣賞）受賞 寄居町 村越兼人・トシ子夫妻

受賞おめでとうございます！！

平成24年7月24日に島根県で開催された「第61回全国農業コンクール全国大会」で、寄居町の村越兼人・トシ子夫妻が名誉賞（農林水産大臣賞）を受賞されました。

村越さんは、平成6年頃にケヤキなどの大型植木の生産から、斑入りヤブランを主力にしたグランドカバープランツ類の生産に転向しました。「日本の風土に合うヤブランは絶対に売れる！！」と信じて、全国で初めて斑入りヤブランの大規模生産・販売を始めました。現在では生産量全国1位、国内で流通している斑入りヤブランの5割のシェアを占め、全国で「ヤブランの村越」と呼ばれています。

審査では、大型機械の導入で省力・低コスト生産を実現し、規模拡大を図ってきた点や、近隣養鶏農家の鶏ふん堆肥の活用や遊休農地の解消など、地域の活性化に貢献している点が高く評価されました。

今後は観光資源としてのヤブランの提案や、温暖化対策に向けたグランドカバープランツの大量生産など、現在の2倍の経営面積を目標にしたいと、村越さんの夢は大きく広がっています。



村越兼人さん

村越トシ子さん

## 農業法人紹介(シリーズ ②) 有限会社 馬場ファミリー農園

有限会社・馬場ファミリー農園は、深谷市人見地区で、ねぎ、ブロッコリー、キャベツ等の露地野菜を中心に年間約8haを栽培する経営体です。

自社の後継者育成や人材確保等の雇用対策、対外的な信用力確保を目的に平成17年に法人化しました。

当社は、名称が示す様に家族経営の発展型であり、一彦氏が代表取締役、父、母、弟が取締役として就任しています。現在は家族5人、正社員3人、パート従業員4人の12人体制で仕事をしています。

当社の特徴・経営の方針は次のとおりです。

- ① 農業後継者、新規就農者の育成を念頭においた若者の積極的な雇用。中・高・専門学校生などの研修生の受け入れ。
- ② 地域農業活性化のための、地域農産物PR等の取材、撮影の協力。
- ③ 乗用管理機、半自動ねぎ収穫機等の大型機械化による圃場作業の省力化とベストロボ等による調整作業の効率化。
- ④ 加工業者との直接取引による収入の安定化とねぎの周年出荷体制の確立。
- ⑤ JAふかや藤沢支店野菜部会や関係機関等と連携した新技術の積極的な導入。



今後は、露地野菜の一層の規模拡大や若手の育成に力を入れ、幅広い経営の確立を目指していると考えています。

## 雇用導入での労務管理ポイント

経営発展のためには、経営を支える人材としての労働者を育成することが重要です。

労働者に対する、採用、研修、賃金、労働時間、昇給、異動、昇格、退職などについての適正な労務管理が不可欠です。

### 1 雇用契約

使用者は労働者に対して、正社員、パートを問わず重要な労働条件を書面で明示する必要があります。

労働基準法で定められた最低基準を下回る労働条件は適用できません。

#### <明示しなければならない労働条件>

- ・契約はいつまでか
- ・仕事の場所、仕事の内容
- ・仕事の時間や休憩時間
- ・賃金はどのように支払われるか
- ・辞めるときの決まり

### 2 労働時間

農業では天候等の自然条件に左右されること、農閑期に休養をとることができる等の理由から、労働時間関係について労働基準法の規制がなく、所定労働時間を自由に設定できます。

農繁期には労働時間を長く、農閑期には短く設定することが可能です。

しかし、「労働者に長時間労働をさせてもよい」ということではなく、優秀な人材を確保するためにも他産業並みの「1週40時間」を目安に設定することが望まれます。

### 3 賃金

賃金の最低額は法律に基づいて定められていて、埼玉県での場合、現時点では時間額759円です。雇用形態を問わず全ての労働者に適用されます。

また、午後10時～午前5時の深夜労働では、通常賃金の25%以上増して支払う必要があります。

### 4 業務災害の補償責任

使用者は、労働者が業務上負傷等した場合には、療養に必要な費用を補償する義務があります。

しかし、労災保険により補償が受けられる場合は、使用者は補償する必要はありません。

農業では、常時雇用している労働者5人未満の個人経営の場合は労災保険加入は任意とされていますが、業務災害は経営の大きなリスクであることをよく認識し、加入の判断をすることが必要です。

## 秋の農作業事故をゼロに！

平成23年に県内で発生した農作業事故は42件で、うち27件が農業機械による事故でした。平成23年は7～8月に事故が多く発生しましたが、例年は春と秋に事故が多発しています。年齢別には7割が60歳以上、機械種別では歩行型トラクター、管理機、乗用型トラクターで多い状況です。

### 1 農作業事故防止のポイント！

県内で発生した農作業死亡事故の約9割が農業機械による事故です。そのうち約半数がトラクターの横転・転落によるものです。

- (1) 安全フレームのあるトラクターを使用し、必ずシートベルトの着用を徹底しましょう。安全フレームのあるトラクターでもシートベルトを着用しないと転倒した際に身体を守ることができません。
- (2) ほ場出入り時の転倒やほ場の端から転落するケースが多く報告されています。ほ場への出入り時はトラクターの作業機を下げて傾斜に対してまっすぐに出入りしましょう。
- (3) ほ場から出る際の事故として片ブレーキによる事故が多いので、ほ場から出る前にブレーキペダルを連結しましょう。
- (4) 機械回転部への巻き込み事故が多発しています。ロータリーやカッターに詰まった異物を取り除くときは必ずエンジンを止め、手袋をはずして作業しましょう。
- (5) 路肩や水路周辺は草刈りをして見通しを良くしておきましょう。
- (6) 公道を走行する時は早めにライトを点灯するとともに、反射材を取り付けて交通事故を防止しましょう。

### 2 事故に備えて保険に加入しましょう！

労災保険や共済への加入をお勧めします。労災保険の場合、加入義務の無い農業者の方も一定の要件のもとに特別加入という形で加入できます。

加入条件、手続き、保険料などの詳細についてはもよりのJA、農林振興センター（担当：根岸）までお問い合わせください。

# 期待の新品種 小麦「さとのそら」

大里地域の小麦生産は、県内トップの栽培面積と生産量を誇っています。

代表的な品種は「農林61号」であり、すでに60年以上作り続けられています。

この「農林61号」に代わる品種として、北関東4県では、実需者と連携の上検討し、群馬県で育成された新品種「さとのそら」の普及を決定しました。

今回は、「さとのそら」の特性と栽培のポイントを紹介いたします。

## 1 特性

- (1)ふ色(穂の色): 褐色
- (2)播性程度: IV  
= 幼穂形成までに十分な低温期間が必要
- (3)縞萎縮病・うどんこ病・赤さび病抵抗性: 強、赤かび病抵抗性: 中、穂発芽性: 難

### 「農林61号」と比較して・・・

- (4)草丈: 低い、稈長: 約10cm低い、穂長: 同程度～やや長い。
- (5)分けつ: 旺盛、茎数: 多い、穂数: 1割程度多い。
- (6)収量: 多収。
- (7)茎立期: 7日程度遅い、出穂期: 1～2日早い、成熟期: 1～3日早い。
- (8)外観品質: 同程度～やや優れる。
- (9)容積重: 同程度～やや軽い。
- (10)灰分: 低い。
- (11)追肥によりタンパク質含量は高まりやすい。
- (12)アミロース含量: 同程度、製粉性: 優れる。
- (13)うどん: めん色がやや優れ、食感と同程度。



図1 株標本  
右「農林61号」  
左「さとのそら」

## 2 栽培のポイント

(1)播種適期: 11月10日～25日

11月播種と比較し、12月に入ってからの播種は減収率が「農林61号」よりも大きく、外観品質も落ち、規格外の発生割合が高まります。

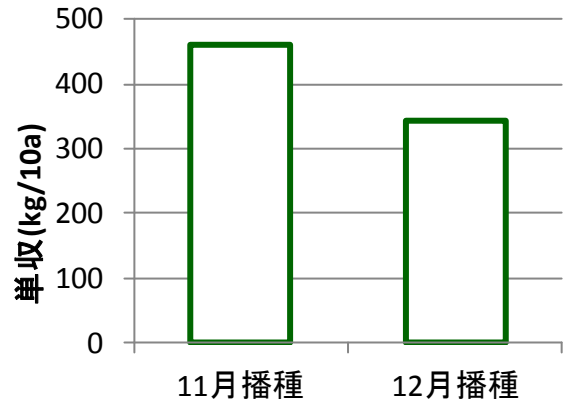


図4 「さとのそら」播種期別収量  
注)1.平成23年産 熊谷市内生産者平均  
2.JA出荷実績からの換算数値

(2)播種量: 6～8kg/10a

分けつが旺盛で穂数の確保がしやすく、千粒重が「農林61号」よりも1g 軽いため、厚播きは倒伏の助長や弱小穂の増加につながります。

(3)施肥量: 「農林61号」よりも1割増施

「さとのそら」の生育量と窒素吸収量は、生育後半に増加します。特に、出穂期前後にピークとなるため、追肥重点型の施肥体系としましょう。

### 【施肥パターン】

《基肥》: 窒素成分8kg/10a



《追肥》3月上中旬に必ず実施  
窒素成分2～4kg/10a



生育、天候の状況により、場合によりさらに追加施用。

本年度播種は管内で約300haが予定されています。品種特性をよく理解し、栽培のポイントを守り、高品質・多収生産を目指しましょう。

(技術普及担当 作物担当)

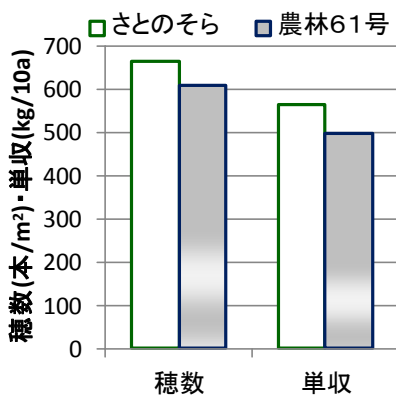
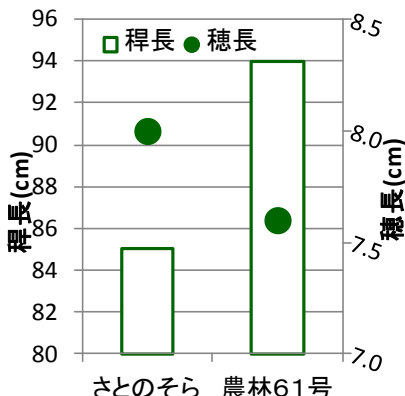


図3 生育・収量調査結果: 穂数、単収

# ブロッコリーの病害

## 1 黒腐病

### (1) 症状

初め下葉の葉縁から黄化し、葉脈から外側へ広がり、V字型の黄褐色の病斑を形成して拡大します。病斑は、古くなると枯死、乾燥して破れ、花蕾に発生すると黒変します。

### (2) 発生

初秋から晩秋にかけて発生します。

風雨・虫害等による傷口から、風雨等の土壌の跳ね上がり等により感染します。

### (3) 対策

降雨時の停滞水を速やかに排水できるように、ほ場の排水対策を行います。強風等により、茎葉の損傷が生じた場合は、速やかに薬剤散布を行います。適切な施肥を行い、肥料切れしないようにします。



べと病 花柄が黒変

## 3 軟腐病

### (1) 症状

茎葉に発生すると黄褐色を呈して軟腐します。花蕾に発生すると褐変し、腐敗して悪臭を放ちます。

### (2) 発生

高温期に出蕾する作型で発生します。虫害や風雨等による土壌の跳ね上がり等によって感染します。高温期の大雨や多湿条件で多発しやすく、生育中期以降に排水不良、窒素過多で発生しやすくなります。

### (3) 対策

軟弱徒長にならないように窒素多肥を避けます。降雨時の停滞水を速やかに排水できるようにほ場の排水対策を行います。強風等により茎葉の損傷が生じた場合は、速やかに薬剤散布を行います。



黒腐病 葉の縁に生じる病斑

## 2 べと病

### (1) 症状

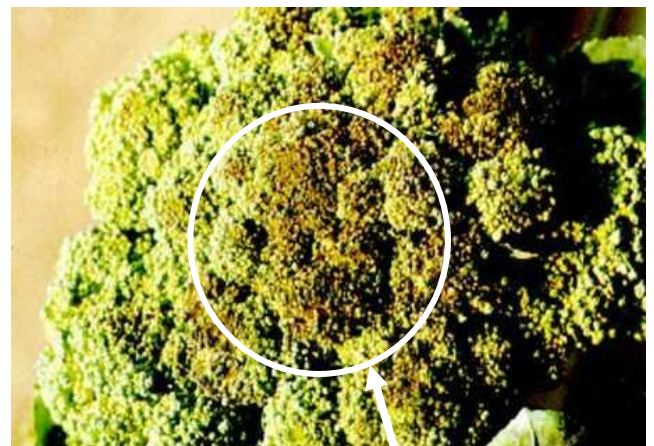
外葉の下葉から発生します。葉脈間に淡黄褐色、不整形で大きさが不揃いの病斑を生じます。葉裏の病斑面には、汚白色、霜状のかびが発生します。花蕾では発病が軽微な場合、外観では確認することが難しいですが、花蕾直下の主茎や花柄が黒変します。

### (2) 発生

比較的低温で冷涼な晩秋等に、降雨が続いた場合、多湿条件で発生が多くなります。堆肥や窒素肥料の多量施用や極端な密植では、発病が助長されます。

### (3) 対策

窒素肥料や堆肥を過度に施用せず、適正な施肥管理を行います。花蕾の発病が少ない品種を選択します。冬どり栽培では、10月上旬から10月下旬が薬剤防除適期です。



軟腐病(花蕾) 変色して悪臭が発生

(技術普及担当 野菜担当)

# 商品の”売り”を上手に伝えるための写真撮影技術

展示商談会などで使用するチラシやラベルなどのPRツールでは、使用する写真の出来不出来が説得力を左右します。

## 1 構図(フレーミング)

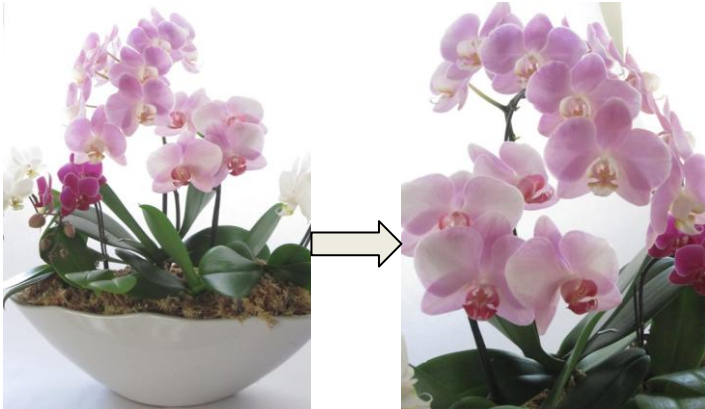
商品写真はセールスポイントを相手により強く伝える目的のものなので、商品全体を客観的に記録する必要はありません。

### 商品写真は「脱・記録写真！」

- ①利用場面を想定した構図にして、商品提案をしましょう。  
「食卓に鉢花を飾った朝食風景」、「お客様を迎える花に囲まれた玄関」など。



- ②商品全景にこだわらず、セールスポイントに絞りこみ思い切ってアップに  
「花付きに自信」、「独自の花色」など。



## 2 露出

肉眼で見た印象に近い撮影を行うためには、白い被写体はプラスの露出補正を、黒い(濃い)被写体はマイナスの露出補正を行う必要があります。



白い被写体はプラスの露出補正を！

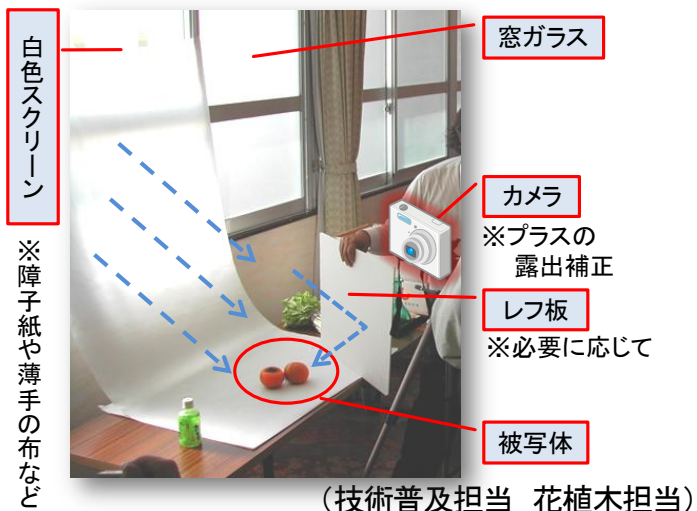


色の濃い被写体はマイナスの露出補正を！

## 3 自然光を使った撮影

カメラ内蔵のフラッシュを使うと、立体感の乏しい平坦な写真に仕上がりに、背景に被写体の影が写り込むことがあります。

ガラス窓に大きめの障子紙を貼り、その前で撮影すると、障子紙を通った散乱気味の逆光となり、立体感のある写真が撮影できます。



## 「儲かる畜産経営」－基本は記録から－

### 1 簿記の原点は

毎年税務申告をされているかと思いますが、経営収支にとらわれている方が、多いのではないのでしょうか。

簿記の原点は、正確な収支のみならず、管理・飼養状況を自ら記録することです。他人任せでなく自ら行うこと(家族の方でもOK)が重要です。

### 2 集計、反省、改善のポイント

経営規模の大きさにもよるので一概には言えませんが、最低でも月計集計をしてください。毎月の総額把握はもちもんですが、数値の変化に注目します。

昨年と比べての単価はどうか、総出荷量の変化は、同一飼料の場合の単価は、総給与量は、等いくつかのチェックポイントを決めて数値を眺めます。

在庫管理にもなります。衛生管理も踏まえて無駄な商品は置かないように心がけることもお忘れなく。棚卸しで今後使用予定がないものは、折を見て処分していきましょう。

### 3 分析を試みよう

分析と聞くと難しいと思う方もいるかもしれませんが、自動車の燃費の変化の比較と同じです。

飼料費が重要なポイントです。例えば、月の総収入に対して、購入飼料代(在庫を除く)の比率を計算してみてください。但し、安くすることを追求して、泌乳効率や日増体重の効率などが落ちることのないようにします。

その他は、自分で興味のある項目から分析してみましょう。

毎月続けることが重要です。時系列の変化を数字で確認することが、経営者としての責務です。

### 4 将来設計を立てる

毎日記録することに慣れて、苦にならないようになることがまずは肝要です。

機械や施設等は故障が発生したり老朽化します。また、規模拡大や施設更新、世代交代等が生じる時期があります。短期、長期プランの設計を考えておくことが重要です。

このためにも記録は絶対必要です。判断材料の一つに必ずなるのです。

近年は全く逆の場合も生じる可能性があります。経営転換ややむを得ず経営廃業する時の判断にも役に立ちます。畜舎や堆肥舎の取り壊しや整地工事費に分別行程が加わり、膨大な経費が発生します。この費用も計上しておきましょう。堆肥の処分も忘れないでください。

### 5 数字を読める経営者兼労働者になろう

経営目標を、今月は、今年、来年は、と立てるためにも数字で書いてみるのが重要です。

我が家の経営ですので、良いことも悪いこともあるかと思いますが、数値化して、家族で相談する会議を短時間でも結構ですから、実行してください。

農家の場合、主人や奥さんが経営者でもありますが、労働者も兼務しています。ご子息やご両親も同様です。作業分担していても、同一経営体ですので、お互いに全体を把握し合い、各自からの角度から、労働配分、機械の調整、購入業者の選定など話し合っ、得意分野を再確認しましょう。

目標に向かい、家族で相談することにより、儲かる畜産経営を目指しましょう。

まずは、記録をつけ、  
集計 してみましよう

残暑を家畜とともに乗り越えましよう。



## 埼玉県農業大学校 平成25年度学生募集

埼玉県農業大学校は、農業及び農業関連産業の担い手を育てるための埼玉県立の専修学校です。

基本技術科には、野菜や花植木、畜産等の農業の基礎技術を2年間かけて学ぶ2年課程(卒業生には専門士の称号が付与)と、社会人の方などが学びやすいように1年間で実践力を養う1年課程「実践コース」を設けています。

高度技術科では、より高度な学習を行います。

### 募集定員

科名	修業期間	コース	定員	
基本技術	2年	野菜	35名	80名
		花植木	15名	
畜産	5名			
	1年	実践	25名	
高度技術	1年	—	5名	

### 出願期間・試験日・合格発表

科名	区分	出願期間	試験日	合格発表
基本技術	推薦*	H24.10.1 ~10.12	10.24	11.2
	一般前期	H25.1.4 ~1.11	1.23	2.1
	一般後期	H25.2.12 ~2.20	2.28	3.8
高度技術	前期	H24.12.3 ~12.14	1.23	2.1
	後期	H25.2.12 ~2.20	2.28	3.8

\*指定校推薦入試を含む

受験希望者を対象に9月9、16、23、30日に「日曜オープン見学会」を開催します。

詳しくは、農業大学校(電話049-285-4984)または大里農林振興センター(担当:赤羽)までお問い合わせください。

## 若手女性農業者セミナー開催

7月13日(金)、大里農林振興センター研修室において、管内の若手女性農業者を対象にしたセミナーを開催しました。

主穀作、露地野菜、施設野菜、施設花き、畜産経営の11人が参加しました。結婚して農家に入ったばかりの人や積極的に農業経営に参画している人など様々でした。

(社)農山漁村女性・生活活動支援協会専務理事、齋藤京子氏の講演「かけがえのない自分を活かす農業と農村での暮らし」の後、手づくり簡単おやつを試食しながら、自己紹介や農業経営での役割、農業への想いなどについて、意見交換を行いました。

開会時には、かなり緊張した面持ちでしたが、お互いに話をするうちに表情も和らぎ、和気あいあいとした雰囲気になりました。

今回は、9月27日(木)午後1時30分から大里農林振興センターで、農業を始めて12年になる本庄市「つぶつぶ農園・和菜」の鈴木美穂子さんをお招きしてお話を聞く予定です。ご近所に若手女性農業者がいましたら、お声掛け宜しくお願いします。



情報交換の様子(赤ちゃん連れの方も参加)

## 技術情報ダイジェスト

本誌3面に掲載されている技術情報は、「主穀」「野菜」「花植木」「畜産」の4部門のうち、皆様の経営内容に合わせた部門の記事を掲載しています。

各部門では以下の内容で記事を作成していますので、本誌に載っていない部門の記事に御関心がありましたら、当センターにお問い合わせ下さい。

**主穀:**「期待の新品種 小麦『さとのそら』」

**野菜:**「ブロッコリーの病害」

**花植木:**「商品の”売り”を上手に伝えるための写真撮影技術」

**畜産:**「儲かる畜産経営—基本は記録から—」